

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3471503171		
法人名	有限会社 陽気		
事業所名	グループホーム いぶき		
所在地 (電話番号)	福山市駅家町法成寺2808-1 (電話) 084-949-3230		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島県南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成22年2月9日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】(22 年 1 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	14.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造一部鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	7,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		830 円	

(4) 利用者の概要(1 月 12 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長外科胃腸科医院 ・ 浜田歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、桜並木に囲まれた池が見下ろせる自然に囲まれた静かな環境にあり、隣接する託児所の子供達や地域の人々との交流も行なわれている。ユニットごとに理念を決め、また毎年全職員で話合って理念を下に今年は「靴をそろえる」一年の目標を定めて全員で取り組んでいる。家族や友人との絆を大切に、連絡を密接に取り合う関係がみられ、職員全員が理念に寄り添う取り組みが伺われる。また、医療機関との連携もしっかりしているので、介護と医療面の両輪を備え、これからのグループホームの方向性も見え、信頼と安心を与えている。職員が関連資格の習得を希望するとき、支援体制もできており資質向上に寄与している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、特に改善すべき課題はなかった。外部評価についても、職員だけではなく運営推進委員会でも報告している。管理者も変わり、新たな体制での現状維持、更なる向上を期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットの管理者は、自己評価の意義を十分理解しており、3ヶ月に1回の全職員との個別面談において、職員一人ひとりの意見に耳を傾け、自己評価に取り組む体制を作り、問題点を明確にする事で、全職員で改善やサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月に1度開かれる運営推進会議において、家族、町内会長、民生委員、包括支援センター等の参加の下、利用者の問題点、勉強会、意見交換会等が開催されている。参加者からの意見を、全家族、全職員で情報を共有し、改善につながる取り組みをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置している。家族の訪問時、定期的家族会、運営推進会議等、話やすい雰囲気作りで徹し、出された意見を、全職員で話し合い対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域活動としては、秋のはね踊り祭りの休憩所となり、また公民館の文化祭への参加をするなど地域の人々との交流を深めている。また、ホームの夏祭りには回覧板で近隣の人々に参加を呼びかけるなど積極的な働きかけをしている。今後は、以前していた池の周りの清掃に職員と利用者に取り組んだり、消防団との合同訓練を通して地域との連携がますます深まる事を期待します。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で考え、各ユニットごとに作成した理念をホームの入口に掲げている。現在、新たな理念を検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々理念を意識して業務にあたり、毎年理念に基き、目標を掲げ取り組みしている。3ヶ月に1回管理者と職員で個別面談を行い、全体会議にて取組みを話し合っている。また、年度毎の職員の個々の目標も決めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、地域行事である秋の羽踊りの休憩所として交流したり、年1回の公民館での文化祭への参加をしている。また、ホームでの夏祭りには、家族、町内会への参加を回覧版にて呼びかけ交流を重ねている。		今後地域の行事に積極的に参加したり、散歩時にゴミ拾いをするなど、地域との密な交流を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価、外部評価を行い、自分達の振り返りとして利用でき、見直しを行う良い機会としている。日々の業務の中、外が見えなくなるので、気づきの良い機会となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度(年4回)の開催を予定し、年度代りには予定を決め取り組んでいる。運営会議の内容は、全職員で内容を共有し改善に取り組んでいる。また、不参加の家族にも配布し、全体で情報の共有をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の開催する説明会への参加は積極的にしている。必要に応じて問合せをしている。運営推進会議へ参加の呼びかけはしていないが、包括支援センターは参加している。		運営推進会議に包括支援センターの参加はありますが、市への呼びかけを積極的に行う事やケースワーカー等との関わりの中で情報収集に努められる事を期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方のご家族には、毎月通院等の結果報告をしている。他の家族には、面会時、電話にて連絡をしている。職員の異動については、翌月の通信紙(毎月発行)にて連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置しているが、苦情が入った事はない。年1回の家族会で意見交換会の時間を設けている。ご家族と連絡を取る際に、話やすい雰囲気作りに努めている。		今後本人、家族より、意見を求める時は、「何かあったら言ってください。」という曖昧な言葉かけではなく、具体的に聞くように心掛ける事で話しやすくなるので今後に期待します!
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えている。異動があった場合は、細部までの引継ぎを行い、利用者や家族への配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人系列の他事業所と合同で、次期リーダー研修(月2回)、現任研修(月1回)、新人研修(2日間マンツウマンの指導)を行っている。外部研修への参加も積極的に行っている。また職員の育成という面では、看護師、理学療法士等の資格取得への援助を行い、質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や実習等で知り合った同業者との職員同士の付き合いを通して横のつながりを作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来られた時にしっかり説明をしている。慣れるまでは帰宅願望のある場合は、家族より電話をもらったり、いつでも出入りできる事を理解してもらうため、家に少し連れて帰ってもらったりしている。また、夕方帰宅願望が強い場合は、外へ出てくると回ったり、お出掛けしたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買物、調理、片付け、洗濯物たたみ等の日々の生活の中での協力しながら一緒に、個々の主体性を大切にしている。月1回は外出行事を作り、銭湯に一緒に行き、裸の付き合いをしている。ポーリングや喫茶店に行ったりと共に過ごす時間を大切に、家族としての絆を深めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや暮らし方の希望を本人や家族より聞き取り把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から聞き取り、月1回のカンファレンスを持ち、一人ひとりの見直しを行い介護計画書を立てている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスによる見直しを行っている。状態の変化に即して見直しを適宜行い、計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中家族の対応が困難な時は、洗濯等の対応はしている。受診も家族の対応が困難な時は、職員で対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在の利用者は、全員入所時に主治医を変更されているが、今までの主治医の希望があれば、主治医と連携を図り適切な医療が受けられる体制にある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望により、できるだけ早い段階から、本人、家族、主治医と連携を密に図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前の呼び方一つについても考えている。パソコン操作についても、外部の方に対しては注意をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いたり、こちらから提案したりしながらすすめている。利用者主体に生活をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1ヶ月の食費が決まっていて、メニューや買物に至るまで、自分達で考えて決めている。買物にも一緒に出掛ける。ユニットごとにメニューも違う。調理の得意な人、片付けの得意な人という役割分担をして一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴している。入浴を嫌がる利用者にも色々対応を考え、週2回の入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の利用者の得意な事、やりたい事をしてもらい、役割分担をされている。台所の得意な方、片付けが得意な方というように、本人ペースでしている。また散歩を希望される方は、散歩や園芸好きな方はプランターで植物栽培したり、裁縫で雑巾を縫ったりしている。自分の仕事のようにされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物には、いつも利用者と一緒にいく。散歩へ出かけたり、喫茶店へコーヒーを飲みに行ったりと、希望に沿い出掛けるようにしている。月1回の外出行事もしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は、鍵を掛ける弊害を十分理解している。夜間のみ職員が少ないので鍵をかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行い、1回は消防署と一緒に、もう1回は独自の訓練を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、個々に応じて量の把握もしている。水分量は1日1000mlをめざし近づけるようにしている。また、体重測定を定期的に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を飾り(クリスマスにはリースを、お月見にはススキを)、音楽をかけたり季節を感じる工夫をしている。日の光を取り入れ、明るい雰囲気作り心掛けています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での愛用品の置物、タンス等を持ち込まれている方もいます。車椅子の方でもベッドより、布団が好まれます。起居動作の度に2人介助を要しますが、布団で生活しているなど利用者本位の生活が見える。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームいぶき 1階

評価年月日 22年 2月 9日

記入年月日 22年 1月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 久田 晴美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地元のご利用者が少ない中でも、地域の中でより良く暮らせるよう、独自の理念を作成している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日理念を意識し、日々のケアを行っている。必要に応じて管理者と職員で面談を行い、理念の実践に向けてどう取り組んでいるか等話し合っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議で町内会長、民生委員、ご家族などにお伝えする機会をもうけている		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々の挨拶はもちろん、散歩や地域行事等の中で顔見知りの方は増えてきている。ご近所の方が、野菜を持ってきて下さったり、声をかけて下さったりと以前よりは交流が多くなってきている		まだまだ出来る事は沢山ある。より多くの地域行事への参加、散歩や地域清掃への参加を行ってきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事に積極的に参加するように努めている		イベントの内容によって参加不参加を決めているが、もっと多くの行事に参加していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の一員としてごみ拾いは行っているが、直接地域の高齢者の暮らしに役に立っているとはいえない。		カンファレンスで話し合いを行い、取組んでいきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価、および外部評価の意義等を伝え、理解してもらっている。毎年評価後、内容を伝え、日々改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて話し合った内容は、全職員で共有し、改善、向上に活かしている。不参加のご家族にも配布し、いぶき全体での情報共有に努めている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の開催する介護保険事業所説明会など積極的に参加し、サービス向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	事業所の勉強会などで学ぶ機会をもうけている。未だ必要性はないが今後活用していきたい		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会で学ぶ機会をもうけ、各職員に意識づけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし、理解・納得していただけるよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受付を利用したり、面会時・運営推進会議などでご意見を頂き、次に活かしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度、ご家族に日々の様子を掲載している新聞を送付したり、面会時や電話にてその都度連絡をとりあっている。ただ職員の異動まではお伝えしていない		以前ご家族より異動を少なくして欲しいという意見を頂戴したので、もしやむなく異動があった場合でも、少しでも不安を取り除けるようにきちんとお伝えしていきたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置しており、いつでもご意見をいただけるようにしている。ご家族に連絡をとる際に、その都度お聞きできる環境を作るよう徹底している。運営推進会議でも意見をお聞きしている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談の際や、カンファレンス、職員との日々のかかわりの中で意見を聞く機会をもうけている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	変化に応じて対応できるよう職員の理解の上で協力を求めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日々しっかり職員とかかわり、気軽に相談を受けたりアドバイスができる関係を築いており、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。また異動があった場合は引継ぎを細かく行い、ご利用者・ご家族へのダメージを極力少なくできるよう配慮している		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所全体で次期リーダー研修、現任研修、新人研修を行ったり、外部の研修に気軽に参加できるようにし、常に向上していけるように努めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の研修への参加、実習等で知りあった地域の同業者との交流を深め、横のつながりを大切にしている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個人面談時に最近の状況を聞いたり、日々のちょっとした会話を増やし、ストレスがあれば早めに気づき、少しでも軽減できるよう努めている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員とのコミュニケーションを日々大事にし、個々に合う方法で向上心をもって働けるようにアプローチしている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご利用者に心から安心していただけるよう、ご本人の思いをくみ取るよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご利用者とともにご家族にも心から安心していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネジャーと連携を図り、そのとき必要なケアサービスを見極めていけるよう努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	慎重に行っている。ご家族には状態をよく見ていただき、無理なサービスになっていないか相談しながら進めている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし ながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	ご利用者を人生の先輩として尊敬し、介護する側、される側に分かれず、一緒に毎日生活する仲間としてとらえ、 楽しみ、悲しみなど共に感じあえ、支えあえる関係を築 けている		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の悩み、思い、不安等も受け入れ、一緒にご本人 を支えあえる関係作りに努めている		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	アセスメントをすることにより把握させていただき、ご 利用後の変化等もお伝えしたり、面会の時間を大切にと らえ、支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の馴染みの方、馴染みの場所等、職員全員で把握し、関係が途切れないよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気のあうご利用者との関係を大事にし生活のさまざまな場面でもに過ごしたり、ご利用者同士がうまく関わりあえない場合は職員が間に入り孤立せずお互いが支えあえる関係作りに努めている。一階と二階でフロアは別でも気の合う方は一緒に過ごす時間をもうけている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後、入院されている場合は面会に行ったり、電話連絡をするなど関係が途切れないようにしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや暮らし方の希望などご家族やご本人から聞き取り把握している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの段階で確認を行い、その後もご家族、ご本人よりお聞きし把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の状態を総合的にみて現状を把握している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族からお聞きし、介護計画を立てている		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しは行っている。期間内に見直しが必要になったときはその都度行っている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かく記録に残している 全職員が内容を把握しており実際のケアや介護計画の見直しにも活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご利用者、ご家族のニーズに応じていけるよう各事業所に対応している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	趣味やさまざまな活動に応じていけるよう地域の行事などに参加させていただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	いままでのかかりつけ医を希望される方は、そのままとし、個々にとって適切な医療を受けられるよう支援している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要あれば主治医のほかに認知症の専門医と相談したりしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設内の看護師は日々観察を行っており、かかりつけ医療機関の看護師とも日々連携をとって支援している		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合はたびたび面会に行き、状態の把握、情報収集を行ったり、ご家族とも連絡を取り合い早期退院につながるよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>できるだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし、全員で取り組んでいくようにしている</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ご本人が施設でよりよく暮らせるために、カンファレンスにてできることはどのようにしていくのか、できないことは対応できるサービスにつなげていくなど話し合いを行って対応している</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えにて混乱等防ぐためにも十分引継ぎを行ったり情報交換を行ったりしている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>対応等で疑問を感じたら個別であるいは全体に伝え解決している。最も重要にしている点である</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員主体にならないよう十分に気を配っている。伝わりにくい方には選択できる声かけに代えたりとできるだけご本人に選択、納得していただき日々暮らせるよう支援している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務、都合を優先せず、一人ひとりのペースを大切に希望に沿った生活を送っていただけるよう支援している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型、服装などご本人に選んでいただけるよう努めている。難しい方は二つの中から選択していただいたり、個々にあわせて支援している。理・美容も意向に合わせて対応している		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューも一緒に決めたり、買い物の段階から好みに合わせて対応したりとすべて一緒に考え行っている。経管栄養で口からの摂取がむずかしい方には食事風景がみえないよう配慮している		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一緒に買い物に出かけた際などご本人より希望があれば購入していただいたり、行事などではお酒も楽しんでいただいている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々にあわせて対応している。オムツ使用はできるだけ避け、排泄パターンを把握し気持ちよく排泄していただけるよう努めている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望のある方は極力希望通りに対応している 訴えがない方も曜日や時間等職員の都合でなくご本人の体調や思いを大切にされた対応をしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時間は決めておらず、個々の生活習慣に合わせて対応している。(午前中眠気が強い方は一時間ほど休憩をとったりなど)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の生活歴を把握し、ご本人の思いを聞き取りながら、日々の生活の中で役割をもっていただき、少しの時間でも楽しみごとや気晴らしの支援ができるよう努めている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段はお預かりしていますが、必要に応じて所持していただき一緒に買い物に行ったりしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日や、希望のある日には希望の場所にてかけるよう対応している。買い物も必ずご利用者とともにしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日々のかかわりの中でお聞きし、普段の勤務上でかけるのが困難な場合は、事前に計画を立てそういう機会をもうけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやりとりはできていない 電話をしたいときにはできるよう支援している		手紙が届いたらご本人にお渡しし、状況によっては内容をお伝えしていますが、ご本人から手紙を出していただけていないので年賀状・暑中見舞い等書いていただけるよう取組んでいきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には、気を遣わずゆっくり過ごしていただけるように居室にご案内したり、お茶をお出ししたり、近況報告をする等職員の方から積極的にかかわっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会を定期的に行い、理解、認識し、ケアにつなげている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員理解しており、夜勤者一人の際以外は鍵をかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員のチームワークにより、個々のご利用者の様子、状態を常に把握している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	すべて取り除くのではなく、個々にあわせて工夫をしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に勉強会にて知識を入れ、日々のケアに役立てている		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	一年に一度は訓練を行っている。そのほかに勉強会で学んだり個々で講習会に参加するよう促したり、本を読んだりとそれぞれ知識の向上に努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練で訓練を行ったり、地域の方々へのご協力もいただけるようお願いしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時などにお伝えしたり、状況によっては電話連絡等を行い理解をいただいている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に早期発見に努めており、気づいた際は口頭、記録などで各職員に情報を流し、速やかな対応を行っている。スムーズな対応ができるよう日々勉強している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬についての参考資料を置いたり、処方箋等での把握に努めている		参考資料を読んだり情報交換をする等知識の向上に努めていく
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	すぐ薬に頼ることは避け、おなかをあたためマッサージをしたり、食物繊維の含まれる食品を多く献立にいたり、運動や水分摂取の配慮などに努めている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に合わせた方法で口腔ケアを日々行っているが毎食後は出来ていない		ご本人の生活習慣等に配慮しながら無理のないよう声掛けを行い昼食後も口腔内の清潔保持ができるよう支援していく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日記録に残し、平均量の把握もできている。個々に応じた対応を行っている 夜間の水分摂取も心がけている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに応じて日々行っている 職場内研修で知識を深めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	夜間帯に消毒・殺菌を必ず行い、衛生管理に努めている 新鮮な食材を使用し賞味期限等に留意している		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を植えたり、天気の良い日はドアを開け、開放的な環境を作っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり、季節の音楽をかけたりと四季を感じていただけるよう努めている。カーテンの調整、音の調整の配慮して行っている。常にご利用者の立場で考えていくよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	いろいろな場所にいすを置き、一人になりたいとき、二人で会話をしたいときなど思い思いに過ごせる工夫をしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在宅時とあまり環境が変わらないよう極力なじみのものを持ってきていただいている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気、温度調整を行い、におい、菌が蔓延しないように努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に応じて居室にポータブルトイレを設置したり手すりをつけたりと自立支援に努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できることはしていただき、できないところだけサポートしている。常に感謝の言葉を伝え、自信をとりもどしていただくようにしている トイレ等の場所がわかるように表示している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベンチ、いすを置いたり外やベランダに出やすい環境をつくっている		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームいぶき 2階

評価年月日 22年 2月 9日

記入年月日 22年 1月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 リーダー 氏名 藤田 真理子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地元のご利用者が少ない中でも、地域の中でより良く暮らせるよう、独自の理念を作成している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日理念を意識し、日々のケアを行っている。リーダーと職員で面談を行い、理念の実践に向けてどう取り組んでいるか等話し合っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議で町内会長、民生委員、ご家族などにお伝えする機会をもうけている		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々のあいさつはもちろん、散歩や地域行事等の中で顔見知りの方は増えてきている。近所の方が、野菜を持ってきてくださったりと以前よりは交流が多くなってきている		今後もより多くの地域行事への参加、散歩や地域清掃への参加を行っていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の清掃や行事に積極的に参加するように努めている		イベントの内容によって参加不参加を決めているが、もっと多くの行事に参加していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の一員として散歩の際、ごみ拾いは行っているが、直接地域の高齢者の暮らしに役に立っているとはいえない。		今後も話し合いを行い、取組んでいきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価、および外部評価の意義等を伝え、理解してもらっている。毎年評価後、内容を伝え、日々改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて話し合った内容は、全職員で共有し、改善、向上に活かしている。不参加のご家族にも配布し、いぶき全体での情報共有に努めている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の開催する介護保険事業所説明会など積極的に参加し、サービス向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	事業所の勉強会などで学ぶ機会をもうけている。未だ必要性はないが今後活用していきたい		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、事業所内の勉強会で学ぶ機会をもうけ、各職員に意識づけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし、理解・納得していただけるよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受付を利用したり、面会時・運営推進会議などでご意見を頂き、次に活かしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度、ご家族に日々の様子を掲載している新聞を送付したり、面会時や電話にてその都度連絡をとりあっている。ただ職員の異動まではお伝えしきれていない		以前ご家族より異動を少なくして欲しいという意見を頂戴したので、もしやむなく異動等職員の交代があった場合でも、少しでも不安が取り除けるようにきちんとお伝えしていきたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や連絡をとる際に、その都度お聞きできる環境を作るよう徹底している。運営推進会議にて意見交換を行う機会を設けている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談の際や、カンファレンス、職員との日々のかかわりの中で意見を聞く機会をもうけている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	変化に応じて対応できるよう職員の理解の上で協力を求めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>日々しっかり職員とかかわり、気軽に相談を受けたりアドバイスができる関係を築いており、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。また異動があった場合は引継ぎを細かく行い、ご利用者・ご家族へのダメージを極力少なくできるよう配慮している</p>		<p>ケアに関してはご利用者、ご家族へのダメージを極力少なくできるように努めているが、異動の報告まではお伝えしきれていない</p>
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所全体で現任研修、新人研修を行ったり、外部の研修に気軽に参加できるようにし、常に向上していけるように努めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の研修への参加、実習等で知りあった地域の同業者との交流を深め、横のつながりを大切にしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人面談時に最近の状況を聞いたり、日々のちょっとした会話を増やし、ストレスがあれば早めに気づき、少しでも軽減できるよう努めている</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員とのコミュニケーションを日々大事にし、個々に合う方法で向上心をもって働けるようにアプローチしている</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご利用者に心から安心していただけるように、本人の思いをくみとるよう努めている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご利用者とともにご家族にも心から安心していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネジャーと連携を図り、そのとき必要なケアサービスを見極めていけるよう努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	慎重に行っている。ご家族には状態をよく見ていただき、無理なサービスになっていないか相談しながら進めている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側に分かれず、一緒に毎日生活する仲間としてとらえ、楽しみ、悲しみなど共に感じあえ、支えあえる関係を築けている		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の悩み、思い、不安等も受け入れ、ご本人と一緒に支えあえる関係作りに努めている		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	アセスメントをすることにより事前に把握させていただき、利用後の変化等もお伝えしたり、面会の時間を大切に与え、支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の馴染みの方、馴染みの場所等、職員全員で把握し、関係が途切れないよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気のあうご利用者との関係を大事にし、生活のさまざまな場面で共に過ごしたり、ご利用者同士がうまく関わりあえない場合は職員が間に入り孤立せずお互いが支えあえる関係作りに努めている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後、入院されている場合は面会に行ったり、電話連絡をするなど関係が途切れないようにしている。 利用終了されたご家族が、気軽に事業所に立ち寄ってくださったりといい関係が継続されている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや暮らし方の希望などご家族やご本人から聞き取り把握している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの段階で確認を行い、その後もご家族、ご本人よりお聞きし把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の状態を総合的に見て現状を把握している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族からお聞きし、介護計画を立てている		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しは行っている。期間内に見直しが必要になったときはその都度行っている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かく記録に残している 全職員が内容を把握しており実際のケアや介護計画の見直しにも活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご利用者、ご家族のニーズに応じていけるよう各事業所に対応している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	趣味やさまざまな活動に応じていけるよう地域の行事などに参加させていただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	<p>他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>			
42	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>			
43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>いままでのかかりつけ医を希望される方は、そのままとし、個々にとって適切な医療を受けられるよう支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要あれば主治医のほかに認知症の専門医と相談したりしている</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>施設内の看護師は日々観察を行っており、かかりつけ医療機関の看護師とも日々連携をとって支援している</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院された場合はたびたび面会に行き、状態の把握、情報収集を行ったり、ご家族とも連絡を取り合い早期退院につながるよう努めている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	できるだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし、全職員で取り組んでいくようにしている		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人が施設でよりよく暮らせるために、カンファレンスにてできることはどのようにしていくのか、できないことは対応できるサービスにつなげていくなど話し合いを行って対応している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	住み替えにて混乱等防ぐためにも十分引継ぎを行ったり情報交換を行ったりしている		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日々十分注意している。対応等で疑問を感じたら個別であるいは全体に伝え解決していった		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員主体にならないよう十分に気を配っている。伝わりにくい方には選択できる声かけに代えたりとできるだけ本人に選択、納得していただき日々暮らせるよう支援している		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、都合を優先せず、一人ひとりのペースを大切に希望に沿った生活を送っていただけるよう支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型、服装などご本人に選んでいただけるよう努めている。理・美容もご家族と相談しながら、ご本人の意向に合わせて対応している		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューも一緒に決めたり、買い物の段階から好みに合わせて対応したりとすべて一緒に考え行っている		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一緒に買い物に出かけた際など本人より希望があれば購入していただいたり、行事などではお酒も楽しんでいただいている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々にあわせ対応している。オムツ使用はできるだけ避け、排泄パターンを把握し気持ちよく排泄していただけるよう努めている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望のある方は極力希望通りに対応、訴えがない方も曜日や時間では決めていない。体調や思いを大切にしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時間は決めておらず、個々の生活習慣に合わせて対応している。(午前中眠気が強い方は一時間ほど休憩をとったりなど)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割、楽しみごとなどご本人やご家族から聞きだし、日々の生活の中でちょっとした時間でも活かせるよう提供している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の要望がある方はご自分で管理していただいている。買い物の際にのみ所持していただき、利用していただいている方もおられたりと個々に合わせて対応している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	はひなたぼっこをしたり、ドライブ、買い物に出かけたり希望のある日には希望の場所にでかけるよう対応している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日々のかかわりの中でお聞きし、普段の勤務上ででかけるのが困難な場合は、事前に計画を立てそういう機会をもうけている。(銭湯のお好きな方と銭湯に出かけるなど)		今後は年賀状や暑中見舞いを定期的に出させていただき、ご家族とご利用者のいい関係作りにつなげていきたい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	今のところ電話のご希望をされる方はおられないが、ご希望の場合はいつでも思いに添えるよう、職員間で共有はできている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時など居心地よく過ごしていただけるよう環境に配慮したりコミュニケーションが難しい方の場合、職員が必ず間に入るなどして常に来客者の立場で考えている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会を定期的に行い、理解、認識し、ケアにつなげている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員理解しており、夜勤者一人の際以外は鍵をかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員のチームワークにより、個々のご利用者の様子、状態を常に把握している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	取り除くのではなく、個々にあわせて工夫をしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に勉強会にて知識を入れ、日々のケアに役立てている。事故が起きてしまった後もカンファレンスで話し合い、今後再び起こらないよう努めている		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	一年に一度は訓練を行っている。そのほかに勉強会で学んだり個々で講習会に参加するよう促したり、本を読んだりとそれぞれ知識を入れている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練にて夜間帯の場合、日中の場合の訓練を行ったり、地域の方々へのご協力もいただけるようお願いしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時などにお伝えし、理解をいただいている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に早期発見に努めており、気づいた際は口答、記録などで各職員に情報を流し、速やかな対応を行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬についての勉強会を行ったり、ある程度の理解はできているが副作用までは全職員が把握できているとはいえない		今後さらに知識を入れていかなければならない
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	すぐ薬に頼ることは避け、おなかをあたためマッサージをしたり、繊維質を多めに摂ったり、運動や水分摂取の配慮など、十分力を入れている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々にあわせた方法で日々食後に口腔ケアを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日記録に残し、平均量の把握もできている。個々に応じた対応を行っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに応じて日々行っている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	夜間帯に消毒・殺菌を必ず行い、衛生管理に努めている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を植えたり、天気の良い日はドアを開け、開放的な環境を作っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり、季節の音楽をかけたりと四季を感じていただけるよう努めている。カーテンの調整、音の調整の配慮して行っている。常にご利用者の立場で考えていくよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	いろいろな場所に椅子を置き、一人になりたいとき、二人で会話をしたいときなど思い思いに過ごせる工夫をしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在宅時とあまり環境が変わらないよう極力なじみのものを持ってきていただいている。個々に合わせて趣味のもの、ご家族の写真など飾り、居心地よく過ごしていただけるよう努めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気、温度調整を行い、におい、菌が蔓延しないように努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に応じて居室にポータブルトイレを設置したり手すりをつけたりと自立支援に努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できることはしていただき、できないところだけサポートしている。常に感謝の言葉を伝え、自信をとりもどしていただくようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベンチ、いすを置いたり外やベランダに出やすい環境をつくっている		